

兵庫の地質 補遺

(最近の知見から)

岩屋累層 (13 頁・186 頁)

本累層の年代は，貝化石などの資料から新第三紀中新世と考えられていたが，最近，石灰質ナンノおよび渦鞭毛藻化石の解析から，古第三紀始新世と訂正された．

文献：山本裕生・栗田裕司・松原尚志，2003，兵庫県淡路島北部の第三系岩屋層から産出した始新世石灰質ナンノ・渦鞭毛藻化石とその意義．地質雑，**106**，379-382．

佐用礫層 (254 頁)

佐用礫層に類似する山砂利層は，岡山県吉備高原に広く分布している．その形成年代は，明確な証拠がなく，礫層の固結度や赤色風化していることなどから，第四紀に形成された可能性が考えられていた．最近，吉備高原の山砂利層には含まれている凝灰岩層に含まれるジルコンのフィッション・トラック年代の測定から，古第三紀の年代を示す値が報告された．

神戸層群の研究を契機に，神戸層群や山砂利層にみられる問題は西南日本の古第三系に共通していることが指摘されるようになってきた．日本海が形成される以前に，日本列島が位置していたアジア大陸東縁の地質環境が改めて見直されることになり，日本列島の形成史は大きく変わるであろう．今後の地質学の成果に注目したい．

文献：鈴木茂之・壇原徹・田中元，2003，吉備高原に分布する第三系のフィッション・トラック年代．地学雑誌，**112**，35-49．